

サラヤ株式会社 御中

ウガンダ国カセセ県における生計向上支援と母子の栄養改善事業

写真報告書

第2四半期（2020年10月～12月）



2021年2月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



## ウガンダ国カセセ県における生計向上支援と母子の栄養改善事業

ウガンダでは、国民の69%が農業に従事しており、農業が同国GDPの23%を占めています。これを背景に、同国政府の「国家開発計画（NDP）Ⅰ及びⅡ（2010～2019年）」では農業を経済開発の中心セクターの一つとし、その成長を推進してきました。さらに、本年より施行されたNDPⅢは、従来の貧困削減及び開発から経済成長により重点を置き、同計画で焦点を当てる18のプログラム第一項に、農業産業化及び農業競争力の強化を謳っており、国民の食料安全保障向上を推進するとしています。他方、人口一人当たりのGNIは、世界192カ国中178位（780米ドル）に位置し、一人当たりの所得が極めて低いことが深刻な課題でもあります。

上記の所得水準が低いことにより、特に農村地域の母子の保健サービスへのアクセスや栄養不良の状況は依然として厳しい状態にあります。5歳未満の子どもの発育阻害（身長が年齢相応の標準値に満たない）は29%であり、最低食事水準を満たす乳幼児の割合は14%に留まっています。また、鉄分不足により、6ヶ月以上5歳未満の子どもの53%、15-49歳の女性の32%が貧血です。乳幼児期の低栄養は、身体機能だけでなく、認知機能や学習能力の低下に繋がり、妊娠可能年齢女性の低栄養は胎児発育を妨げる大きな要因の一つとなっています。これら課題への対応として、ウガンダ保健省は『性と生殖に関する健康と母子保健計画（2016/17-2019/20）』を発表し、2020年までに5歳未満の子どもの発育阻害率を現在の29%から25%に下げる目標を設定しました。なお、同省はまもなく、『ウガンダ栄養行動計画Ⅱ（2020-2025）』を発刊し、妊産婦を含む母子の栄養改善政策を強化していくとしています。

当会の生計向上支援及び母子の栄養改善事業では、こうした課題に対処するため、ウガンダ西部地域の中でも栄養不良の割合が他と比較して高いカセセ県の母子を支援の対象とし、地域の保健医療施設での栄養啓発活動を促進する他、農家の生産力や耕作知識の向上に向けた支援事業を実施しております。また、貴社におかれては、これまで10年間以上に及び、ウガンダにおける「100万人の手洗いプロジェクト」を実施してこられました。特に本年は新型コロナウイルス感染症の影響が世界的に深刻である中、ウガンダ国内においても普段にも増して、手洗いの励行及び衛生環境の保持が強く推奨されています。貴社の歴史ある取り組みをさらに促進させられるよう、本事業では受益者や保健医療施設に対して、サラヤ社の衛生用品（手指消毒剤）を積極的に導入し、その使用を進めております。

## 1. 生計向上



カルサンダラ準郡にて研修を受けた農家 とうもろこし畑 (2021 年 1 月)

(受益者の声：農家) 昨年 8 月より、セーブ・ザ・チルドレンが実施する農業研修に参加し、収穫高向上のための農法を教わっています。以前は、何となくこの時期に種まきをし、だいたい育ったら刈り取るという感覚で仕事をしていました。また、降雨の時期も以前とは変わってきていて、昔はこの時期に降らなかったのにというタイミングで大雨が降ったりして、収穫にも深刻な影響を与えています。収穫が少ない時は、家族の最低限の食料を買うので精一杯でしたので、体調が悪い時に薬を買うことや子どもを学校に行かせることもままなりませんでした。

研修では耕し方に始まり、等間隔に種まきをすること、頻繁に雑草を抜き栄養を取られないようにすること、害虫がつけば駆除すること等を学びました。教わったとおりにメイズ (とうもろこし) を耕作したところ、これまでは 3 袋ほどしか取れなかったのですが、今回は 10~12 袋取れる見込みです！これから得られる収入で、家族と子どものために食料を買い、まだ買えていない必要な農具も揃えたいと思います。また、2 袋分は売らずに粉にし、非常食として自宅に保管するつもりです。



マリバ準郡の農家 バナナ畑にて (2021 年 1 月)

(活動紹介) マリバ準郡の中でも、最も貧しい地域の農家世帯にバナナ栽培を指導しています。山腹を開墾し、バナナの株を等間隔に植えたところです。また、強い降雨があると株が流される危険があるため、排水が効果的にできるよう溝を掘りました。実はバナナの木は野生で多く見られるのですが、密集していて間引きをしないと実に栄養が行きわたらず、貧弱な果実が育ってしまいます。品質が低いいため、販売できないこともよくあります。逆に、間隔を開けて丁寧に手入れした場合、非常に美味な果実が実り、収穫量も増えるのです。品質の高いバナナができたなら、その収入は今までの 10 倍近くになると現地職員は言います。株を植えてから収穫できるようになるまで 1 年ほどかかりますが、来年の 1 月にこれらの小さい株たちが 3 メートルを超える背丈になって美味しいバナナを生んでくれるのが楽しみです。

## 2. 栄養改善支援

(受益者の声：保健医療施設長)

私どもの施設では衛生保持が極めて大切で、特にコロナ禍に見舞われている今日、サラヤ社の消毒剤は非常に重宝しています。施設を代表して、御社に厚くお礼申し上げます。私たちの村では栄養状態の良くない母子が多くいて、当施設にも体調の悪い乳幼児を連れてくる母親を毎日診ています。彼らのほとんどは貧しく、普段から栄養のある食べ物を食べる事ができていません。また、薬を十分に買うお金をもっていないため体調不良が長引き、栄養が摂れないのでさらに体調が悪化して悪循環に陥っています。こうした問題に対応するため、セーブ・ザ・チルドレンは村の農家に対し、収穫高を上げるための農法を指導して各家庭の収入が増えるよう取り組んで来ています。さらに、栄養摂取の重要性を母親たちに指導するボランティアを私たちの施設に置き、日々活動してくれています。また、セーブ・ザ・チルドレンは、(アフリカ)ほうれん草やナス、トマト、ニンジンといった栄養豊富な野菜を摂ることを推奨するため、私の施設の片隅に家庭菜園を作って、母親たちに見せることを指導してくれました。母親たちの反応は上々で、「少量になるだろうが、これなら何とか自分でもできそうだ。」という期待の声が日々上がっています。これからも、村の人々に栄養改善の指導を積極的にしていくつもりです。



マリバ準郡の保健医療施設長 (2021年1月)



カルサングラ準郡の保健施設のデモ家庭菜園（2021年1月）

（活動紹介）同施設の庭の一角を耕し、デモンストレーション用の家庭菜園を作っています。ナスやホウレンソウ、トマトなど栄養価の高い野菜を栽培し、診療に来る母親たちに紹介しています。普段、家計が逼迫していることから、一回の食事がバナナのみあるいはとうもろこしの粉を水に混ぜて練ったポシヨ（現地語）のみ、という家庭が少なくありません。母親たちには「できる範囲で自家栽培し、一回の食事で3色摂るように。」と指導しています。バナナは黄色、ポシヨは白色ですが、ナスであれば紫、トマトは赤、ホウレンソウは緑といった色があり、栄養といった難しい言葉を使わずとも、バリエーションを彼女たちに理解してもらえよう努めています。

### 【2021年1月以降の活動予定につきまして】

ウガンダでは、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、2020年3月下旬以降、政府主導による厳しい移動制限、集会制限が課されてきました。同年7月より、そうした制限措置は徐々に緩和されつつあり、10月には現地の国際空港を再開するに至りましたが、引き続き予断を許さず、日々の衛生管理を徹底しています。セーブ・ザ・チルドレンは今後も、カセセ州政府と調整しながら、地域の人々が、心身ともに健康を保ち、かつ前向きにこの困難な時期を乗り越えることができるよう、支援を続けてまいります。

加えて、セーブ・ザ・チルドレン・ウガンダ事務所が事業を展開している全地域において、保健医療分野への支援を拡充し、県の保健局や地域の病院、保健所に対し、手洗い設備や消毒剤、マスク、体温計の補充支援、また医療従事者に対する研修などを実施し、最前線において感染症拡大を予防するための支援も継続して実施していきます。